

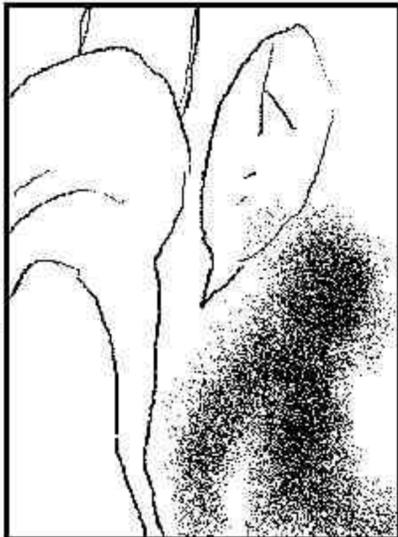
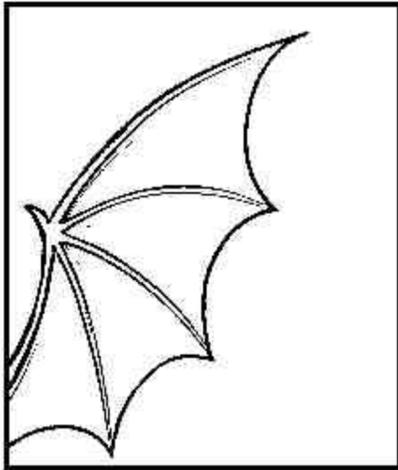
ガス灯がゆらめき
霧と煤煙が街を包む

19世紀末ロンドン



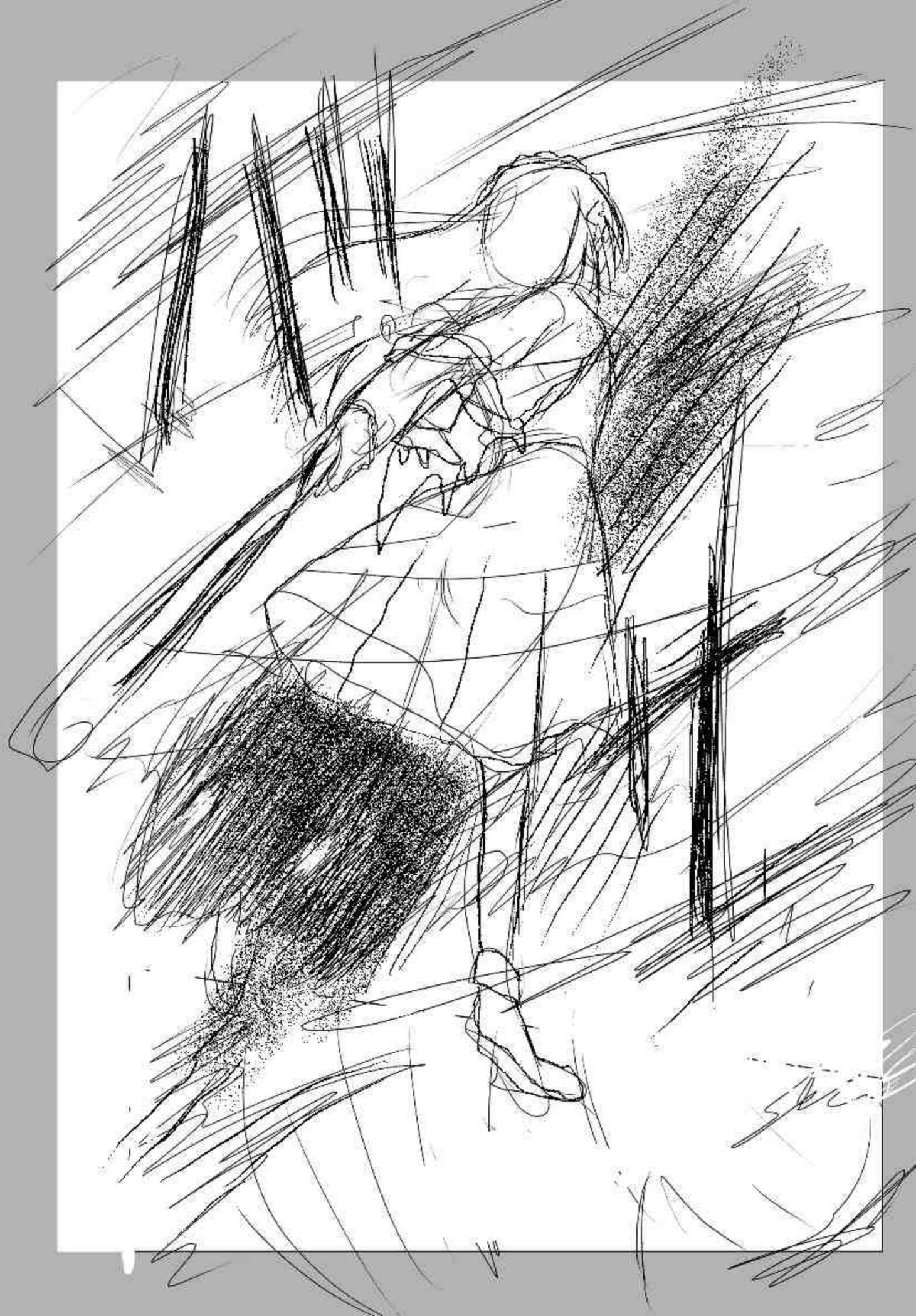
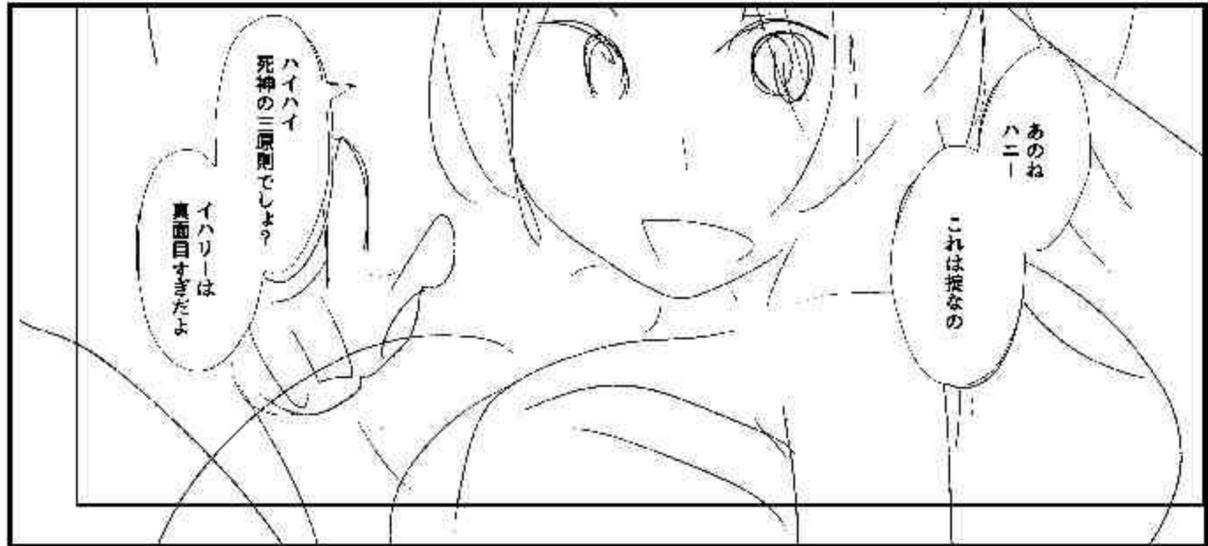
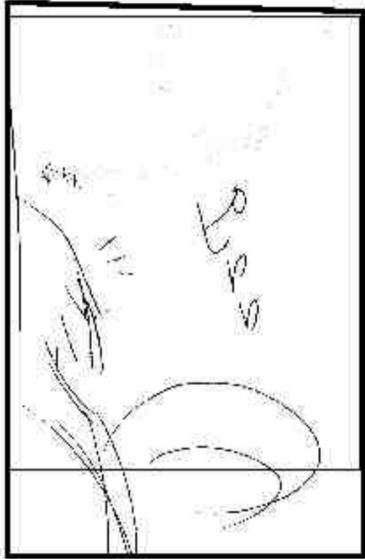
魂は
死んでも消えない

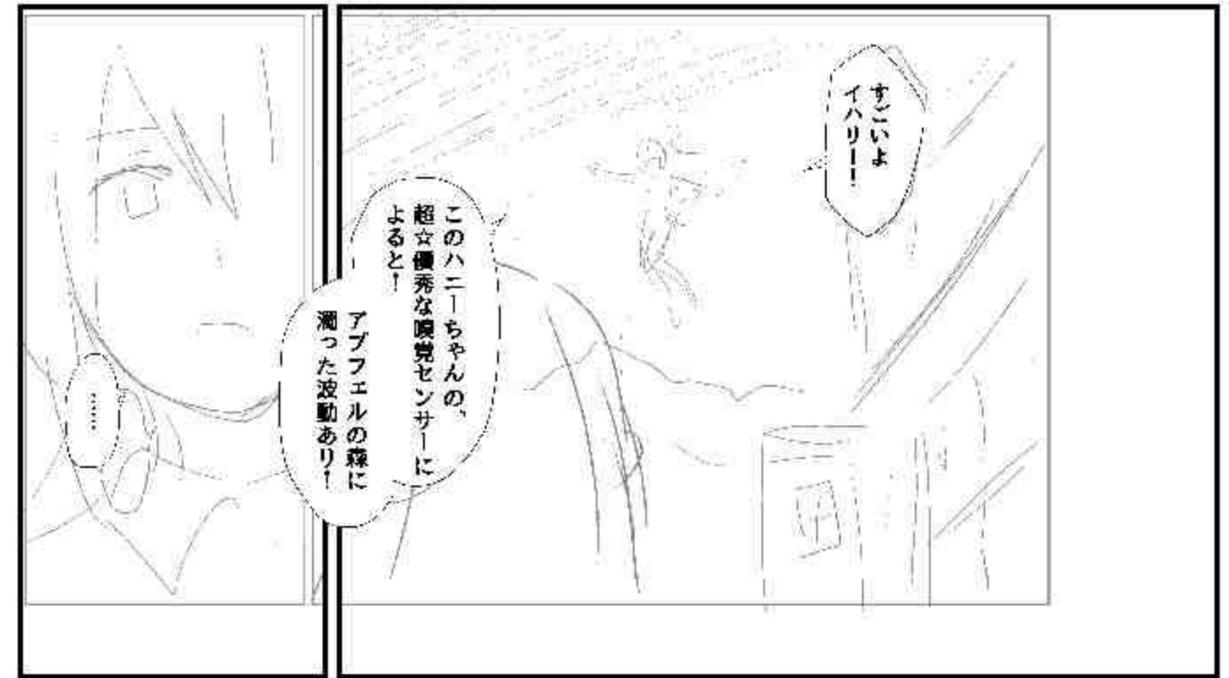
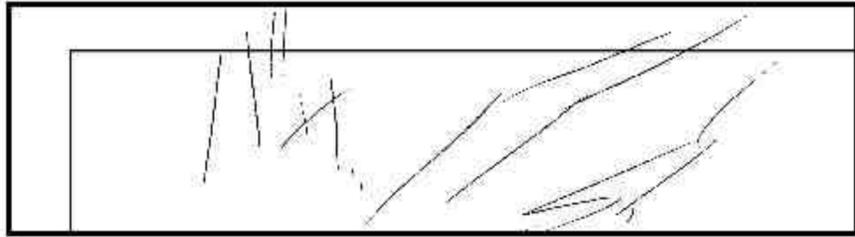
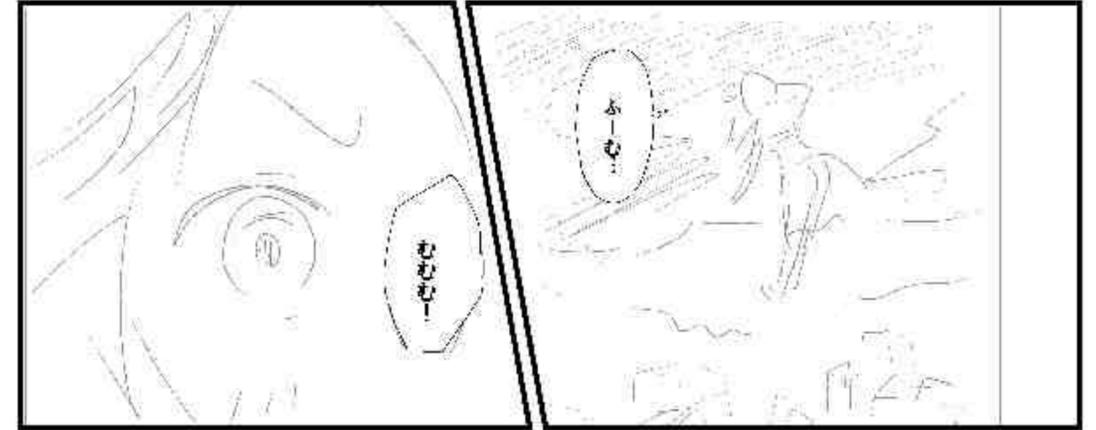
強い未練が
「異形」へ変える

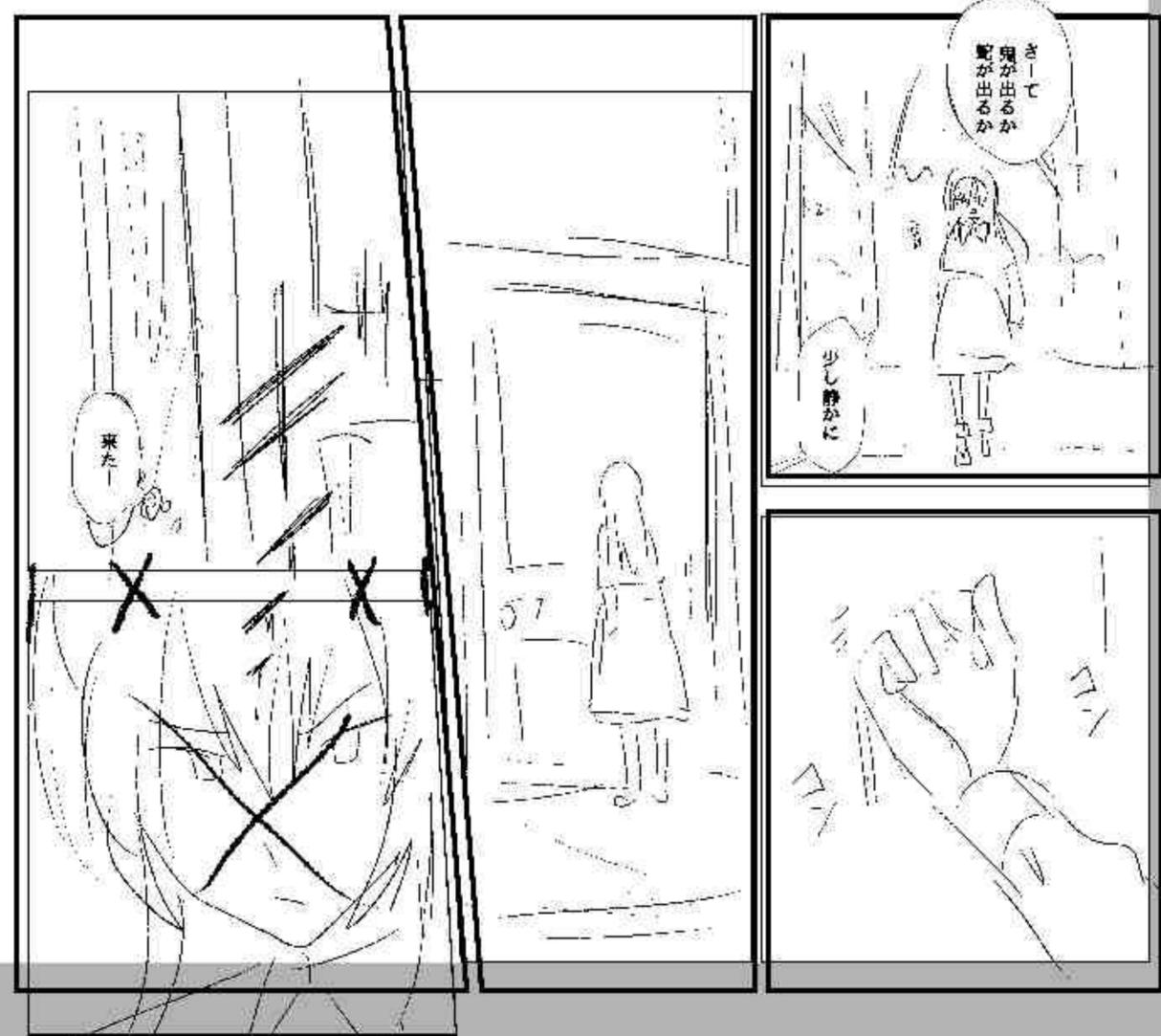
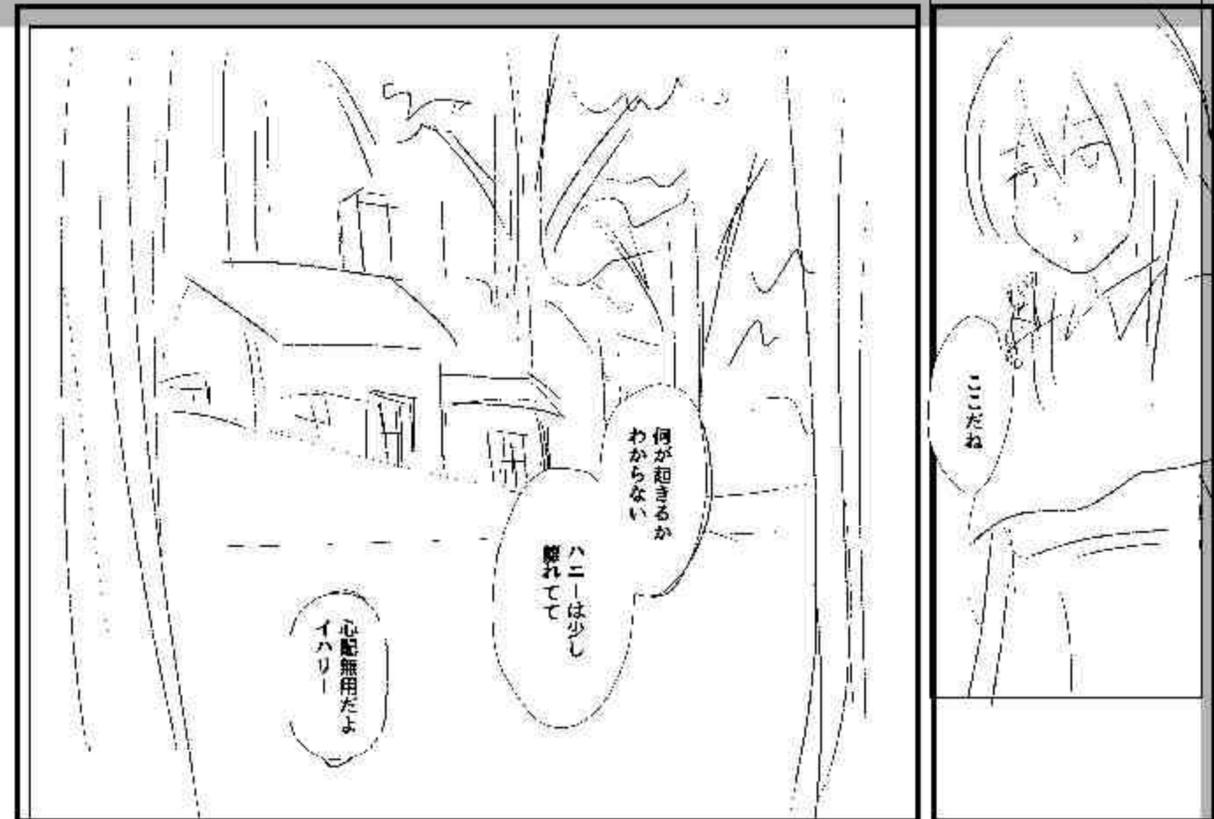
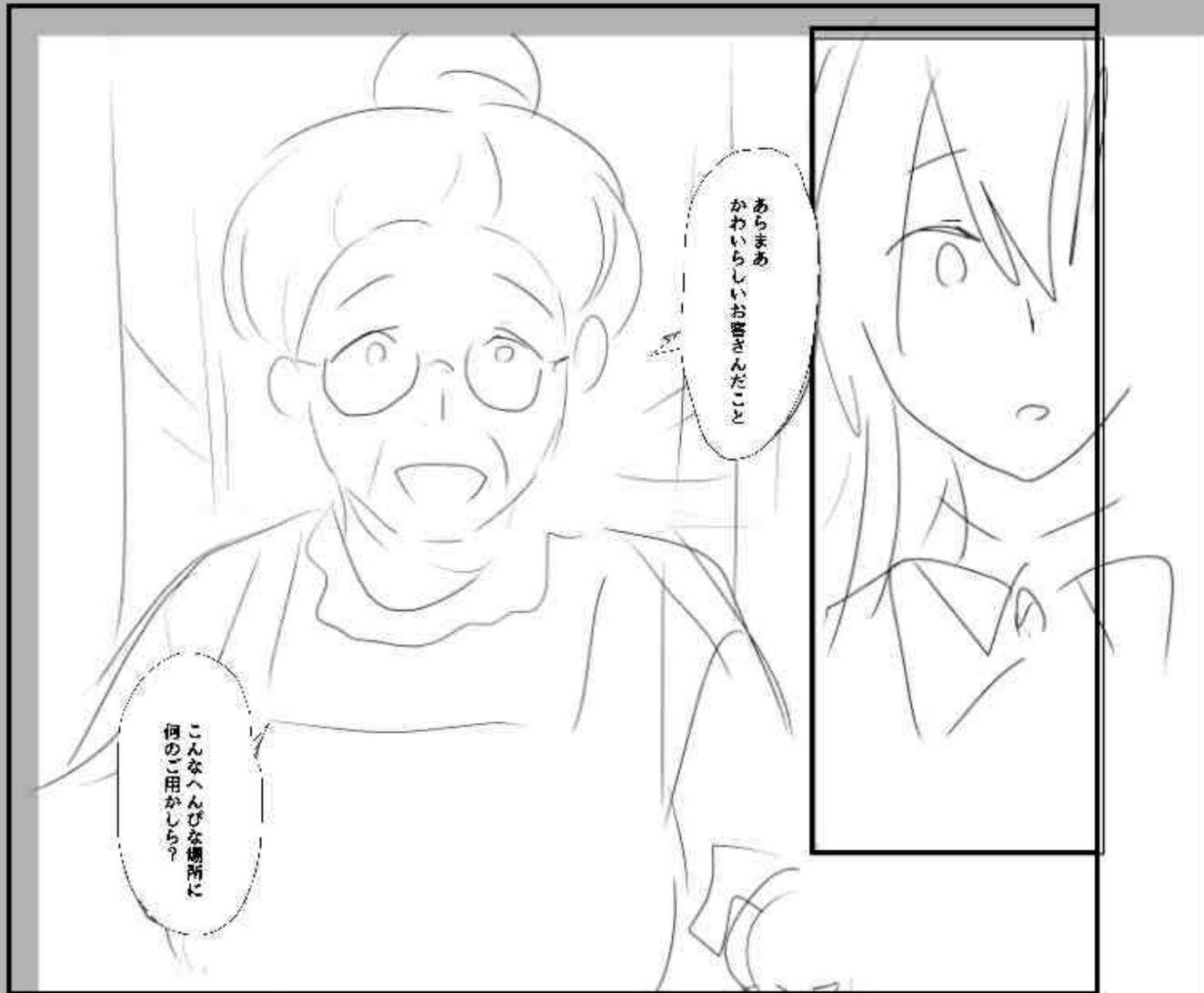


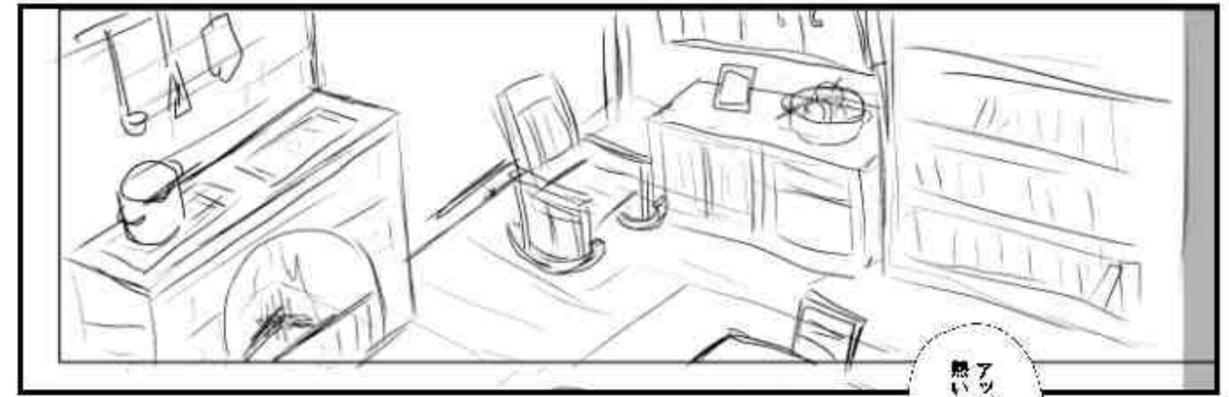
掟に従い
魂を
収めます

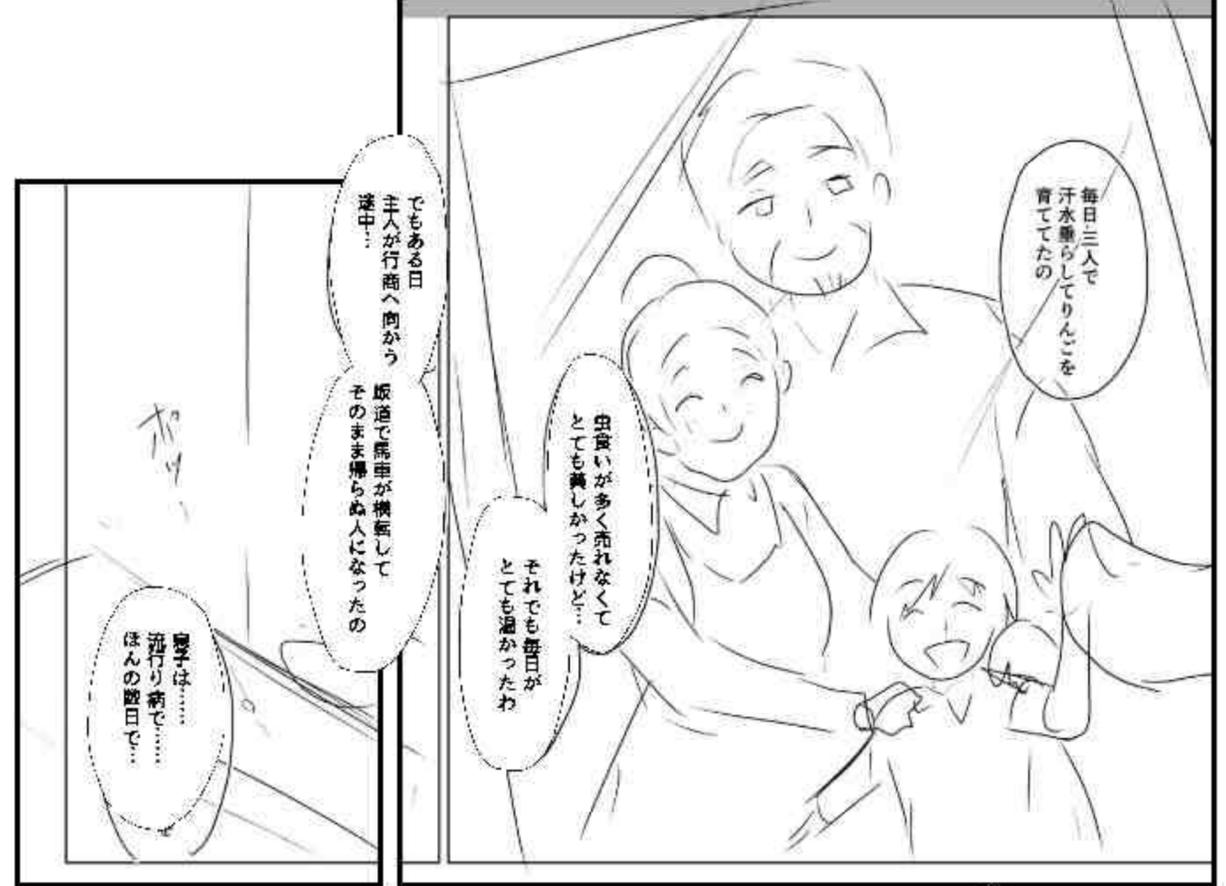
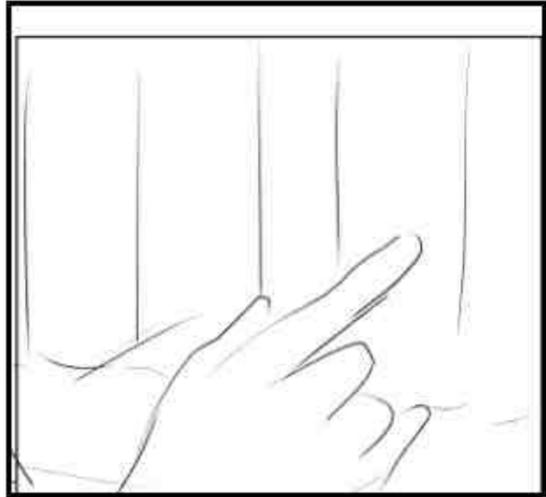
表紙

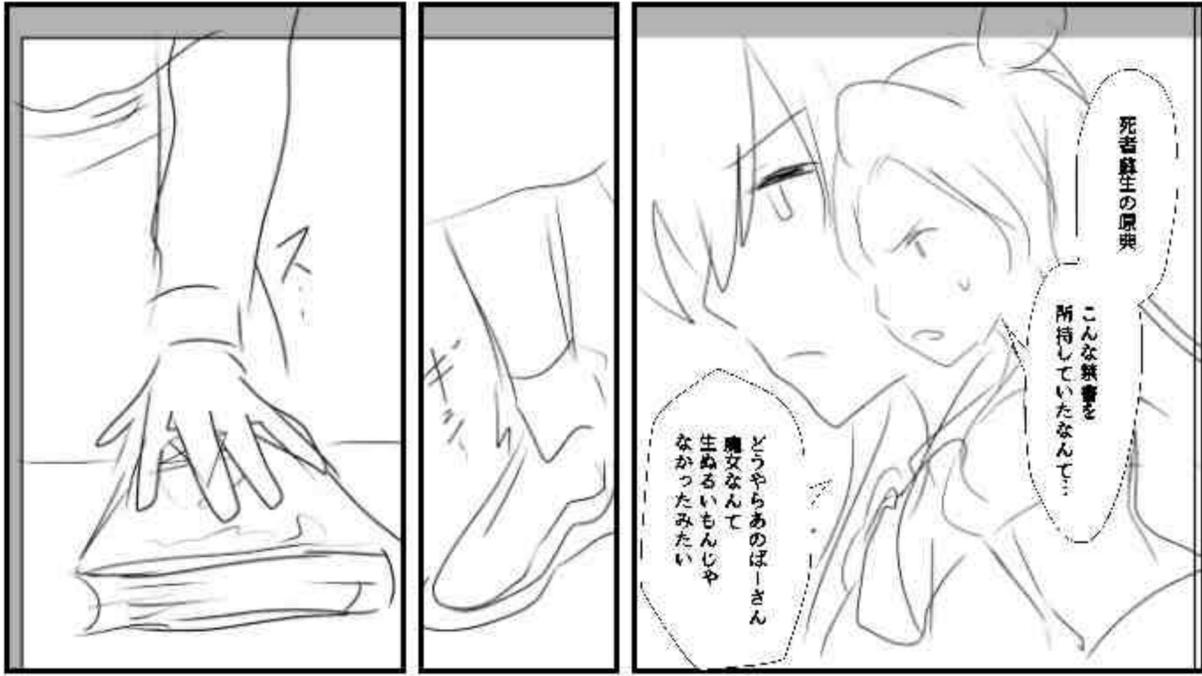




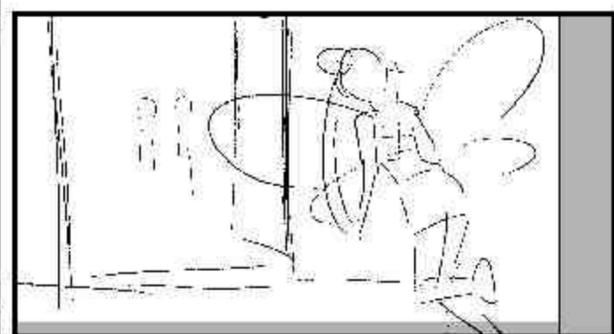
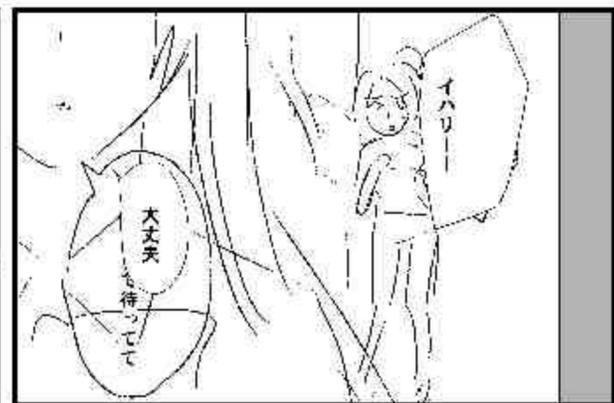
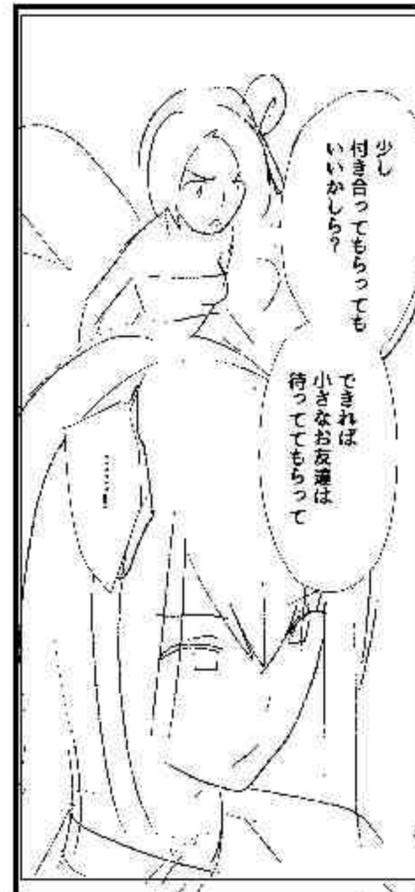
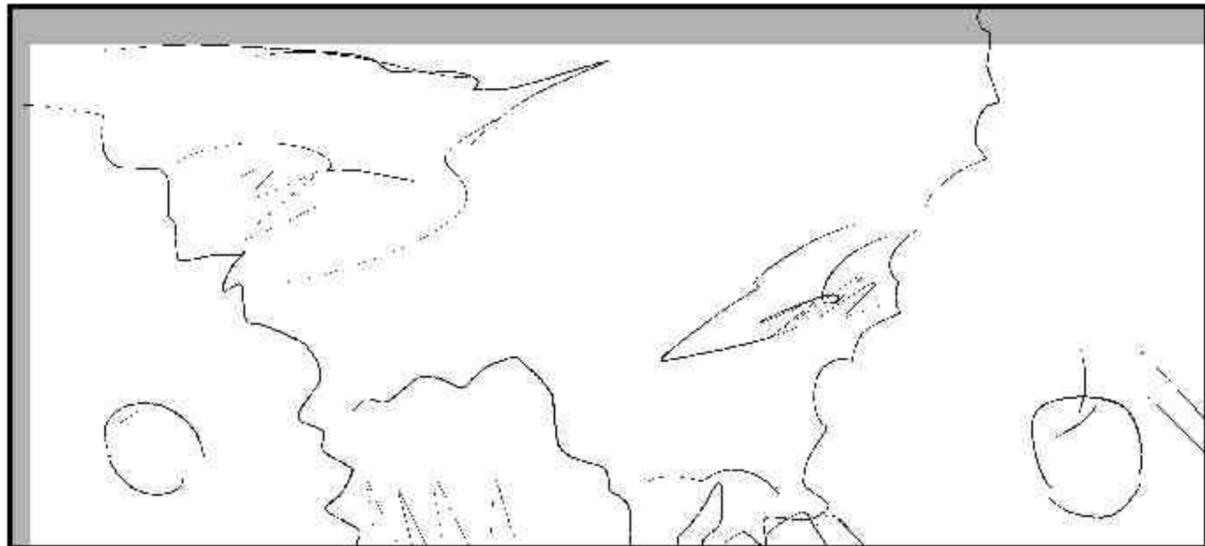


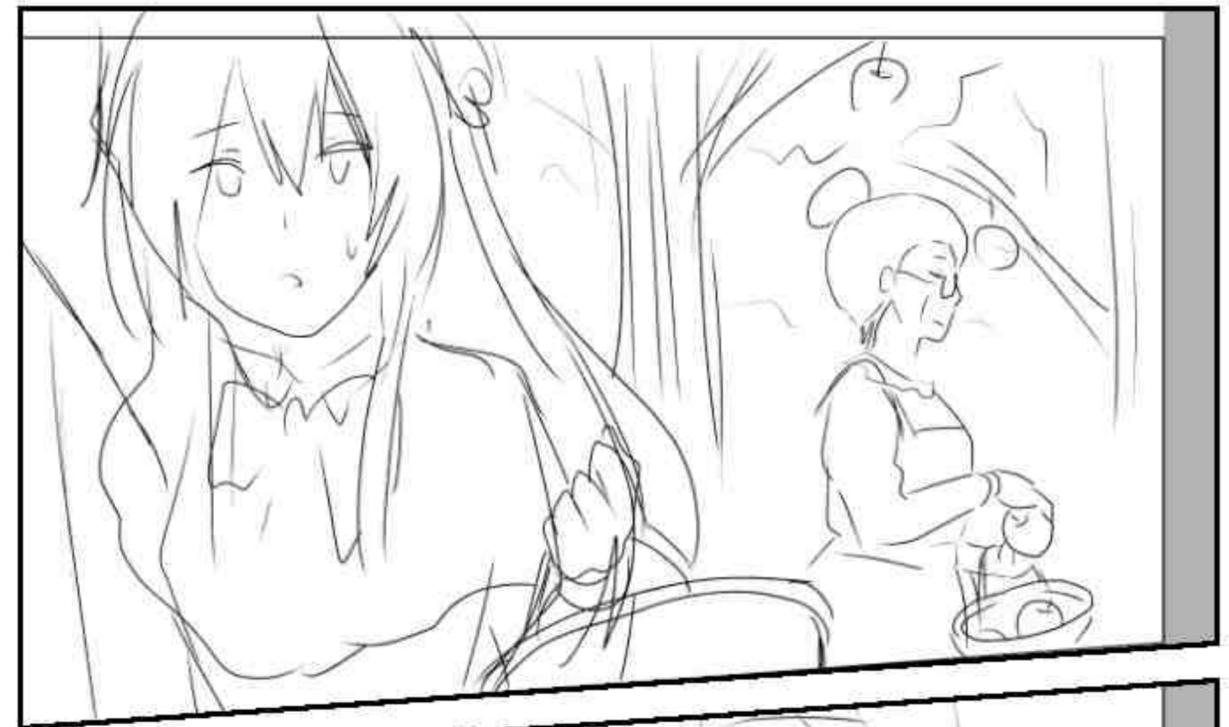


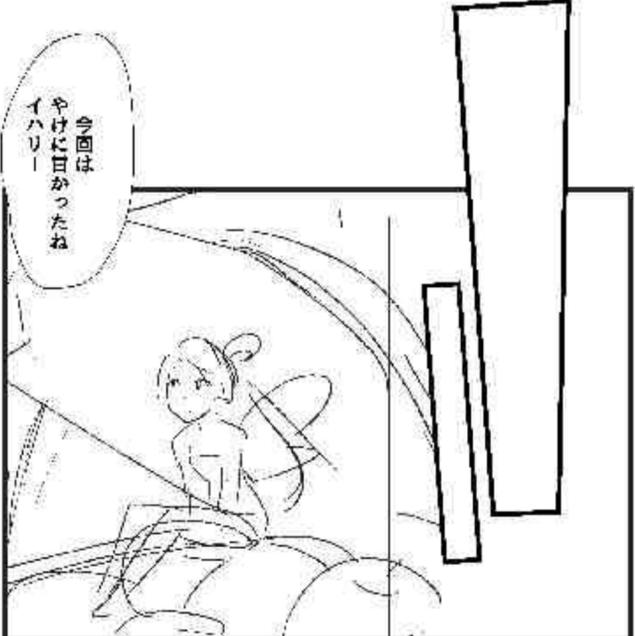
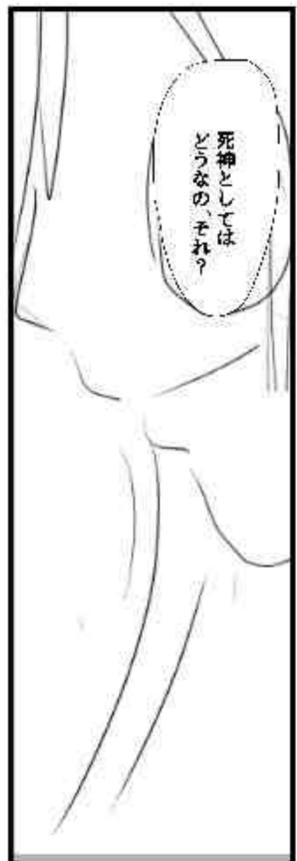
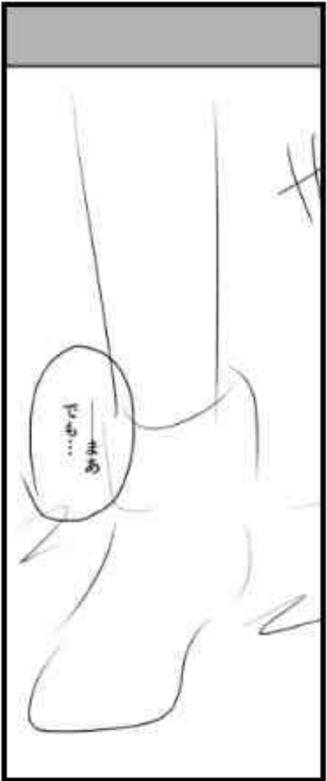
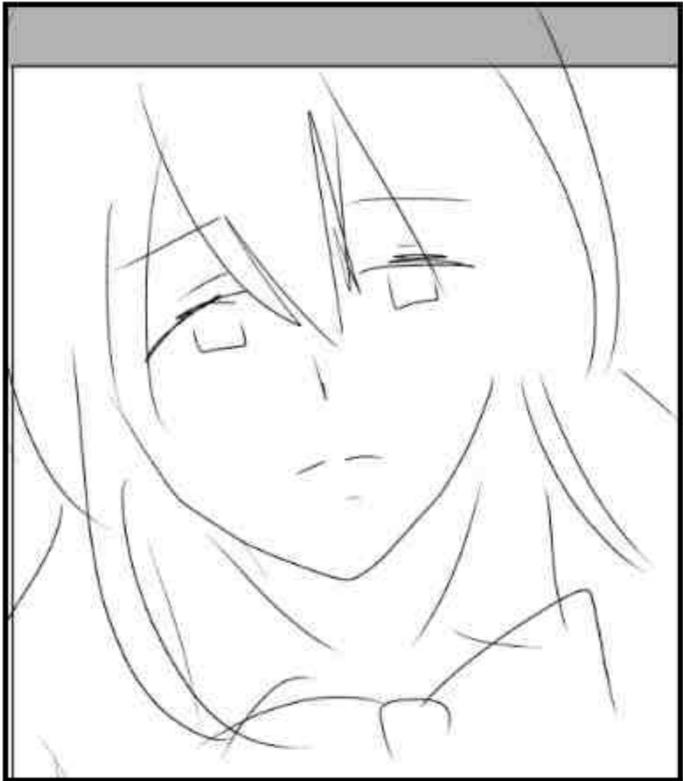




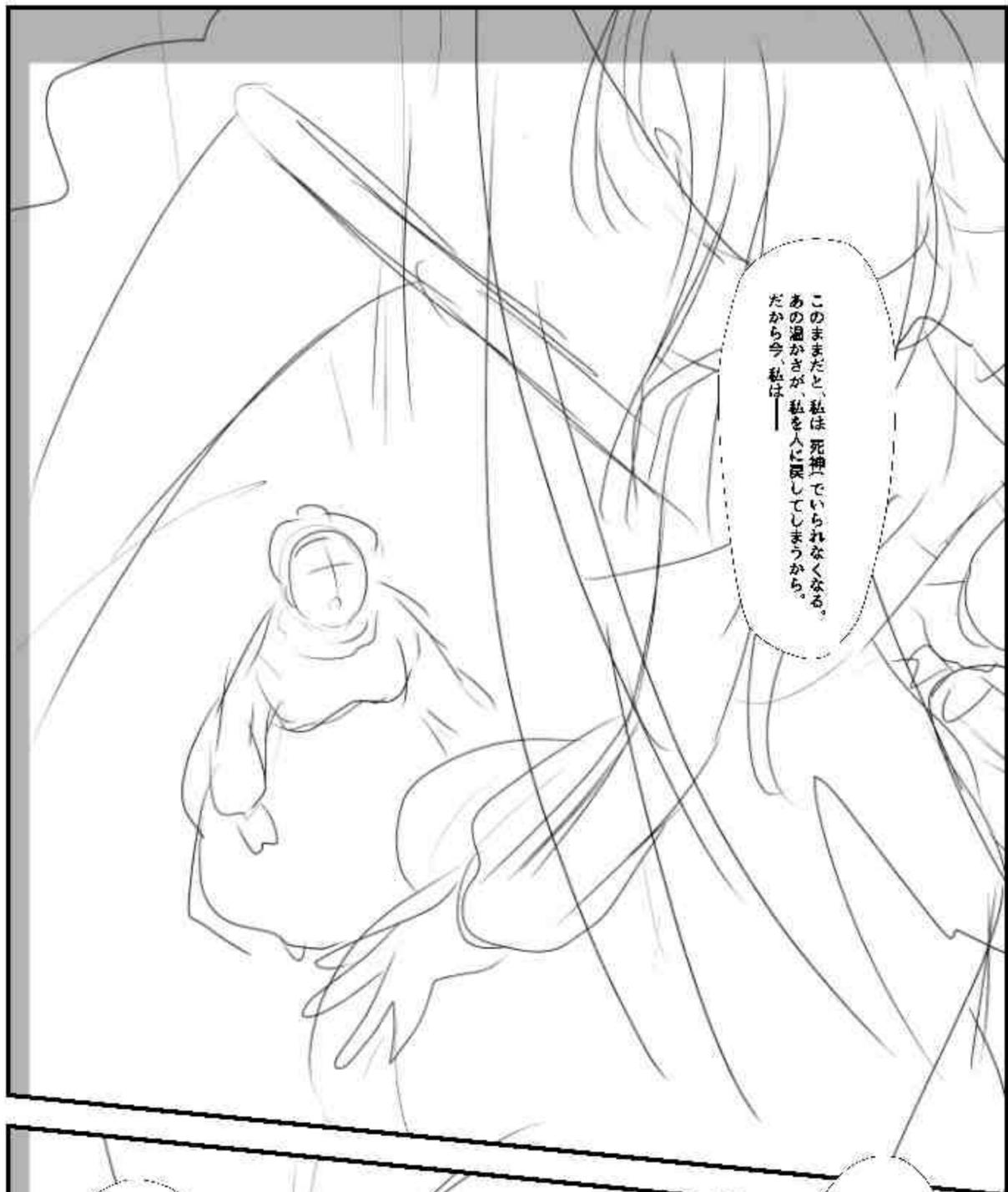




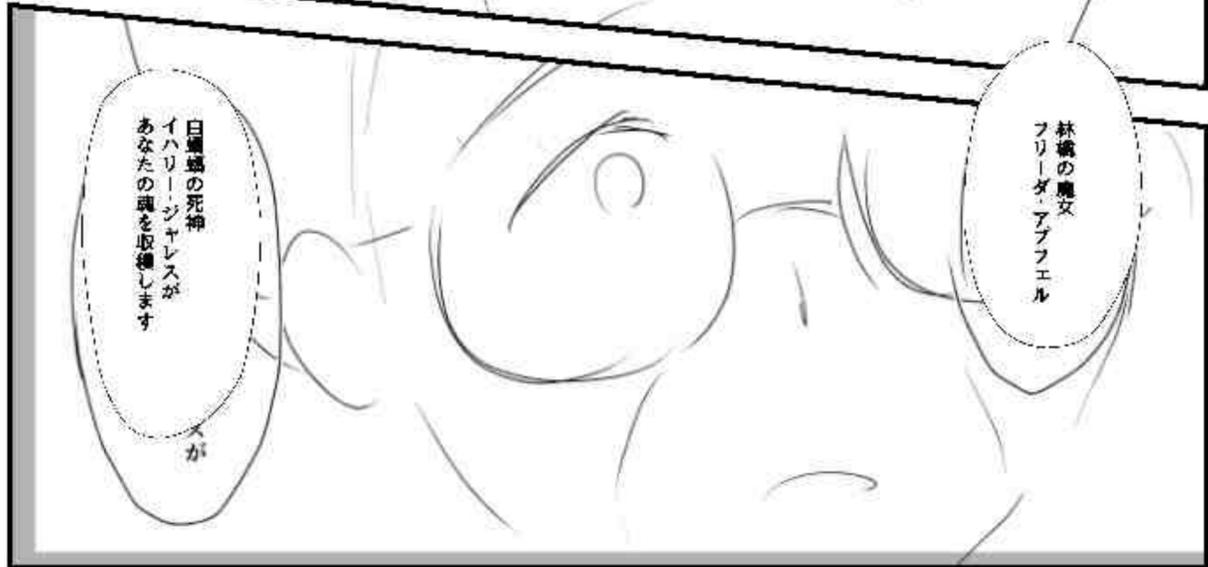








このままだと、私は「死神」でいられなくなる。
あの過かさが、私を人に戻してしまふから。
だから今、私は――



林檎の魔女
フリーダ・アプフェル

白蠟の死神
イハリー・ジャレスが
あなたの魂を取ります

入が



でも――
家族を取り戻せるなら

私は何だってするつもり
だったの



.....



これは私の自己満足で

夫と親子への
冒険になるかも
しれないと思っただけ

その本を使うことが
できなかったの



.....あなたで、よかった

まるで
天啓みたいね



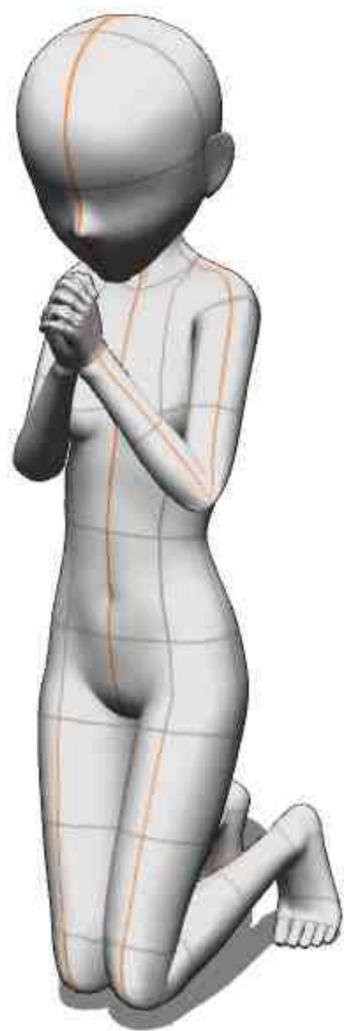
眞信は

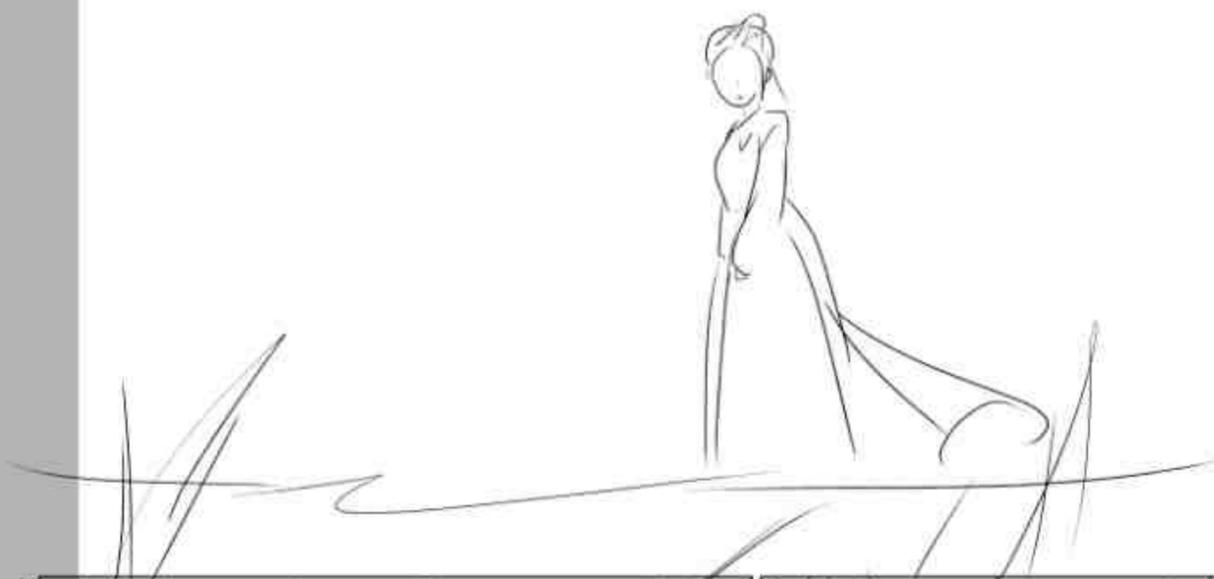
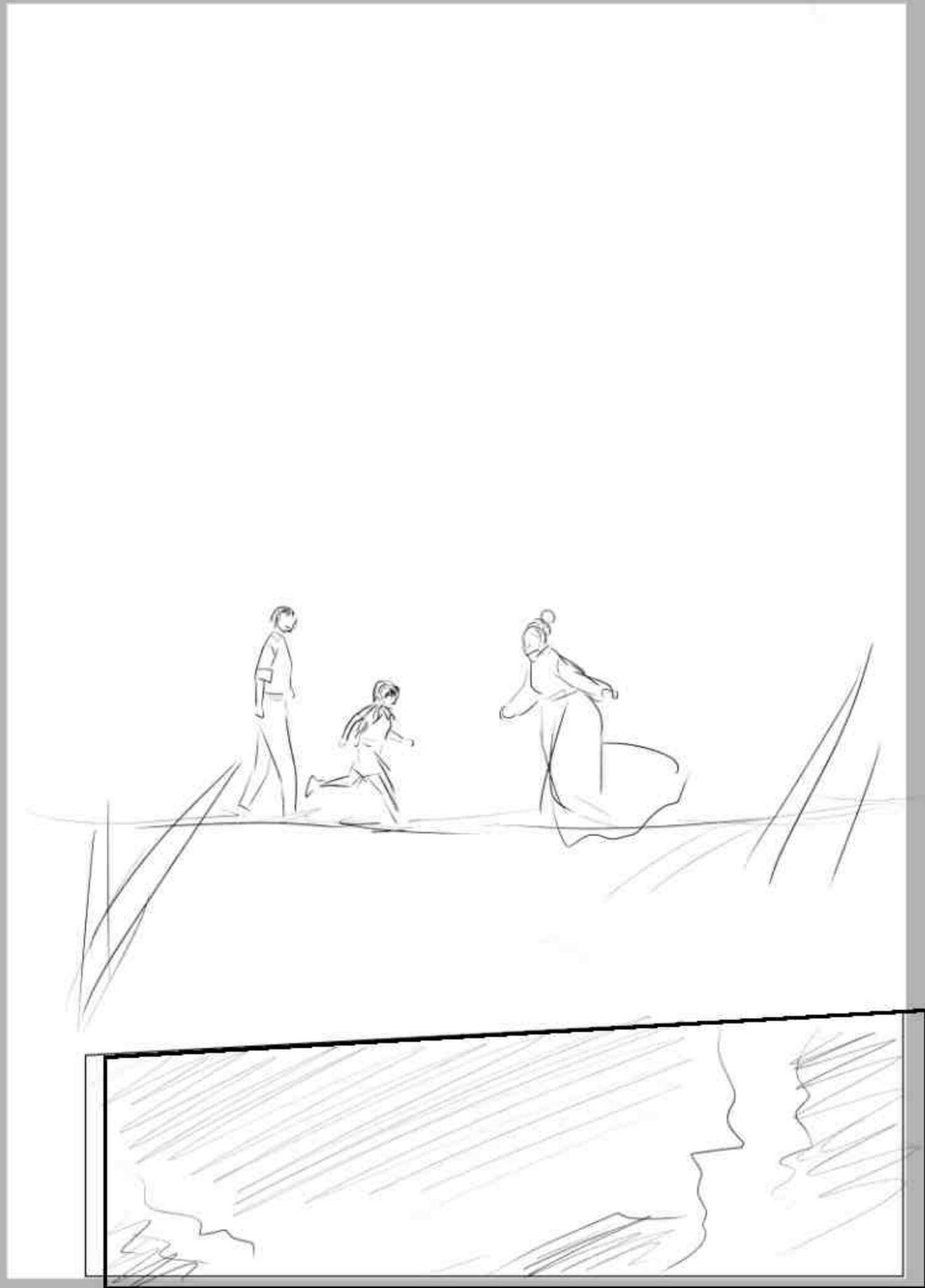
あつたんですね



私は
そんなきれいな
存在じゃない







でも

そらうらうらのも
ちよつと
いいなつて

ア

海面の

海鳥の鳴き声